

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101925		
法人名	有限会社 高木ライフ企画		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	宮崎市鶴島3丁目50		
自己評価作成日	令和4年8月10日	評価結果市町村受理日	令和4年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、利用者を以前の様に外出を気ままにできない状況の中で、利用者がストレスを溜める事無く過ごして頂きたい日々努めています。また個性を大切にしていき、残存機能を活かしながらスタッフ共々ひだまりの一員として毎日を過ごされています。今年、プランターでスイカを育てそれを皆さんで試食しました。他に医療的な面にも力を入れています。例えば、主治医との連携・訪問看護師による利用者の体調管理・歯科医による口腔内のメンテナンス等があげられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは理念を基に利用者の立場に立って寄り添いの介護を行うために言葉遣いや家庭的な雰囲気、地域との関係づくりに努めている。運営の向上のために利用者や家族の要望を始め地域住民や職員の声にも耳を傾け活かしている。面会や外出ができない中でも工夫を凝らしており生活の様子は適宜家族に報告し安心につなげている。職員研修や勉強会などを通して利用者把握に努め質の高いケアに繋がられるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を食堂にかけ、たまに黙読する事はある。できるだけ実践に繋げるように努めている	理念は「利用者の立場に立って寄り添いの介護を行います。」尊厳を持った言葉遣いや家庭的な雰囲気、近隣の方との顔見知りの関係づくりなど具体的に行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もある為地域の方と接触する機会はほぼない。ただ職員は、近隣の方とあいさつを交わせる仲である	近隣の方からお花を貰ったり玄関先の花を植え替えてもらったり、新聞紙で作ったゴミ袋や使い捨ての布を貰ったりと頂くことが多いが、関わりを持っている。	コロナ禍の中ではあるが近所の方からの支援や関わりを受けている。状況が緩和した際には今受けている恩恵を還元できる関わりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為できていない。以前は、小学校の方・地域のボランティアの方々との交流があり、認知症の方々に対しての理解が出来ていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、民生委員・小戸・橋包括に2M/1で利用者の状況報告・行事等を封書で知らせている	コロナ前は、外食をしていたが今は出来ない事を報告したところ、「テイクアウトはどうか？」との意見があり、今はテイクアウトを活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その時々状況に応じてその関係者に相談したりしている	成年後見制度を利用で市長申し立てをする事で市職員が面談に見えたが、最初は本人様中々承諾されずにいたが2回程面談し、数か月後に保佐人決定となった連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践できている	身体拘束等の適正化への取り組み・虐待防止の取り組み・スピーチロック等言い回しは努力している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強し注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会は設けていない。ケアマネが本人と話し合い、申請を行い、関係者と話し合い行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする時は、家族からの質問を受けながら納得できるように説明を行うようしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話などで要望や苦情などを訊ねたりはしている。また運営推進会議は、今はできない為2M/1でひだまりの状況報告を行うなど外部に伝えてはいる	玄関の呼び鈴が壊れていた事に職員が気づかず、家族に指摘され購入。その後の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回程職員との話し合いに参加されている	月1の全体会議で意見を言える状況を創っている。利用者の支援について施設環境についての意見がでたので、みんなで共有し活かした	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から実情を伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育てたい気持ちはあるが、今の状況では難しい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ化である為、交流は難しいが管理者がweb研修を受け、それを職員に発表するようしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ、本人様が緊張されないように話をしながら要望などを聞き情報収集に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で説明を行ったり、要望をお聞きしたりしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何にお困りなのか？どうしていきたいのかを尋ねながら共に考えていくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場として掃除・洗濯など身の回りのことを利用者自身で行えるようにお声を掛けたり、見守りを行うなどしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍である為、今の本人様の状況報告を封書でお送りする事が多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに行った時などに自宅付近を通ったりしてみた	馴染みの場所をドライブした際に、利用者の喜びを表出できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の場合・集団の場合と利用者のその時のニーズに合わせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は転移先に会いに行く等していたが今は難しい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人・ひとりの思いに近づけるように努めている	意向の把握は本人に聴いたり、家族に尋ねたりしている。表出の難しい場合は日頃のコミュニケーションで把握できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員で分からない部分は、家族に尋ねたり、サービスを受けていた事業所に聞く等して職員で把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のバイタルチェック・排泄チェック・水分の把握を行い、表情・話し方・笑顔の有無を観察しながら把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1のミーティングで問題と思われる小さなことでもご本人の生活の質の低下にならないようにして話し合っている。時にはマッサーの方や訪問看護の方に相談したりしている	モニタリングは月1回、定期見直しは3ヶ月ごとに行っている。家族の要望などは電話で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録として、センター方式のD-4を使用し、職員は目を通すようにしたり、引継ぎ時に話し合うようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人の判断ではなく相談し、連絡を取りながら臨機応変に対応できるようにしている		

宮崎県宮崎市 グループホーム「ひだまり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回程ゴミ袋を作って届けて下さったり、玄関先の花を植え替えたりして頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との関係性をを見ながら継続して受診されている	かかりつけ医への受診の継続を支援し、希望があれば協力医を紹介している。訪問看護や歯科検診は往診体制もあり、体調が悪い時は協力医との連携も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化のある利用者の状態相談を行い、支持を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、情報交換を行うなどして、早期退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常生活状態の変化により、主治医に相談したり、利用者様に関係される方に連絡・相談をしながら確認を取り行っている	重度化した場合、主治医と家族、ケアマネで話し合いがもたれ、昨年、一人看取りが行われている。入所前や重度化した際は終末の延命治療などの同意を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った対応を心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防設備業者立ち合いで避難訓練・消火訓練を利用者共に行っている。職員は、通報訓練を行っている。水害は、シュミレーションを行うなどしている	火災時は消防署に自動通報になっている。防災訓練はコロナ禍で地域の協力が得られないので消防設備業者の方が毎回、参加してくれている。職員の通報訓練にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人・ひとりのこれまでの人生の背景を知り、どんな事が苦手・嫌だった。大切にしている思い等を知り声掛けする	個人的なことはお部屋で話すようにしている。又、入浴、排泄の際に嫌がる利用者には声掛けや対応を工夫しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のこうしたい・やってみたいの言葉を大事にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の思いを叶えるように寄り添っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち物の中で好きなものを組み合わせ季節に応じれるように工夫している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理本などを提供しながらメニューの相談をしたりテーブルを拭いて頂いたり、お盆を拭いて頂いたりしている	職員も一緒に食べていたがコロナ禍で食べられなくなった。料理本などを見たり、誕生会では本人の好きなものを用意して楽しい雰囲気になるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間を問わず、少しずつの水分量でも種類や好みに応じて提供。一日の摂取量に近づけるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨かれた後にお声をかけ磨きなおしを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレまでの歩行、立位・座位等自立に向けた動作訓練を行ったり、排泄感覚に合わせ、お声を掛けたりしている	排泄チェック表を作成し、排泄感覚に合わせた声かけをしている。又、トイレまでの歩行・立位・座位等、自立に向けた動作訓練にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を服用しながら、水分量・運動量・食事量等細目に確認し、排泄パターンを把握しているが、それでも難しい場合は座薬使用を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけタイミングに合わせながら入浴に誘うようにしている。また楽しめるように話好きな方は、話をしながら等工夫して入浴している	24時間風呂があり、いつでも入浴ができる環境が取られている。入浴を嫌がる方には声掛けを工夫していつでも入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や利用者の声を大切に休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬は、状態変化を共有しながら医師に報告したりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の「何か手伝うことはない」の言葉などを大切にしたり、好きなものをおやつで提供する等、喜んでいただけるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診後にドライブに行ったり、気の合う人とのドライブを計画し、ストレスが溜まらないように努めている	コロナ禍以前は公園や堤防に散歩に出かけたり、お弁当を持ってドライブに行っていた。今は病院受診後や気の合う人とドライブを計画して外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の方は、物とられ妄想になってしまった為、今は手持ち金を持たれる方はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方からの電話に出て頂いたり、こちらから電話をして家族と話せる機会を設けている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の状況で対応できるように努めている	仲の良い方たちを日当りの良い縁側のソファで庭を眺めるなど空間提供がされ、ベランダのプランターにはスイカやトマト、ピーマンなどが植えられ、季節感が感じられるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内だったり、階下のソファに座りながら庭園を眺めてゆっくり過ごして頂けるように心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でゆっくり過ごす事ができるように工夫している	居室には利用者が使い慣れた家具やテレビなどが置かれている。趣味の作品なども飾られ、安心して居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、廊下に物を置かないように努め、トイレ表示を明確にしお部屋の前には表札をかけたりにしている		